

通送第一四三號

本件ニ関シ十月二十日附通送公第二二七号ヲ以テ御申越ノ趣了承今般内務省ヨリノ通報ニ依レハ臘舘獸減少事由調査ノ結果ニ関シテハ曩ニ樺太長官ヨリ別紙写ノ通報告有之候趣ニ付右ニ依リ英國政府ヘ回答方可然御取計相成度此段申進候也

註 別紙省略

二二九 十二月二十七日

日本外務省ヨリ
在本邦露国大使館宛

海豹島ノ臘舘獸減少ノ原因ニ関スル資料二付

回答ノ件

口 上 書

帝國外務省ハ帝國政府ニ於テ蒐集セル海豹島臘舘獸減少ノ原因ヲ明白ナラシメ得ル材料ノ通告方ニ関スル十一月三十日ノ十二月十三日附在本邦露国大使館口上書ヲ接受シタルニ依リ關係官庁ヘ移牒ノ結果右ニ関スル別紙樺太長官ヨリノ調査報告書写ヲ得タルニ付茲ニ之ヲ露国大使館ニ送付スルノ光榮ヲ有ス

註 別紙ハ前掲二二三文書ノ別紙ト同文ナルニ付省略ス

二三〇 十二月二十七日

在米國佐藤大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

臘舘獸保護條約ニ基ク米國政府交付金受領ノ

件

第二一六号

本年十二月十四日ニ終ル臘舘獸禁獵一年間ニ對スル米國政府ノ交付金一万弗二十七日受領セルニ依リ例年ノ通り処分方取計フヘキニ付承知アリタシ

二三一 十二月二十八日

幣原外務次官ヨリ
上山農商務及市來大藏各次官宛

臘舘獸保護條約第十一條規定ニ基ク米國政府

ノ交付金ニ関スル件

通合送第七六五号

今般在米佐藤大使ヨリ本年十二月十四日ニ終ル臘舘獸禁獵一年間ニ對スル米國政府ノ交付金壹万弗本月二十七日受領セルニ依リ例年ノ通処分方取計フヘキ旨電報越候間右様御承知相成度此段申進候也

追テ本件ハ大藏省
農商務省ヘモ及移牒置候間右申添候也

事項七 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業ニ関スル件

二二二 一月十五日

松崎水産局長ヨリ
坂田通商局長宛

極東ノ露領沿岸漁業ニ関シ当業者ノ意見ヲ徵

スルノ件

附 記 一月十九日附坂田通商局長ヨリ松崎水産局長宛通

送第四四号

同右件

水第一〇五号

(一月十七日接受)

大正五年一月十五日

農商務省水産局長 松崎 寿 三

外務省通商局長 坂田重次郎殿

本件ニ関シ本日別紙写ノ通露領水産組合長ニ對シ照会致置候ニ付テハ右会合当日ニハ貴局ヨリモ御列席相成候様配慮相成度此段申進候也

追而会合期日ハ追テ御通知可申上候

(別紙)

写

大正五年一月十五日

水 産 局 長

露領水産組合長宛

日露漁業協約更新ノ準備トシテ露領沿岸ノ漁業ニ関スル実情ヲ知ル為メ当業者ノ意見ヲ徵シ度就テハ貴組合ニ於テ組合長及實際同方面ニ於テ直接漁業ヲ經營スル組合員五名ヲ選定シ当省ニ於テ会合スヘキ様取計ハレ度此段及照会候也追テ会合ノ日時ハ便宜組合ニ於テ取り極メ人名ト共ニ予メ回報相成度申添候

(附 記)

通送第四四号

本件ニ関シ御申越ノ趣了承右会合当日ニハ当局ヨリモ一名列席可為致候条此段及御回報候也

二二三 一月十七日

俄北海道庁長官ヨリ
石井外務大臣宛

沿海州漁業者傭船料暴騰ニ関スル函館商業會議所建議書ニ付報告ノ件

高秘収第一四六号 (二月二十日接受)

大正五年一月十七日

北海道庁長官 俵 孫一(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

管下函館商業会議所ニ於テハ沿海州漁業者備船料昂騰問題
及工場法中職工扶助規定ニ関シ別紙答申書及建議書ヲ貴省
へ提出スル模様ニ候

申報先(内相、農相)

註 職工扶助規定ニ関スル答申書省略

(別紙)

議案第五号

露領邦人漁業救済ニ関スル建議書案

露領沿岸ニ於ケル漁業権ハ明治卅七八年日露ノ戦役ニ於テ
幾万ノ生靈ヲ犠牲トシ巨億ノ国幣ヲ費シテ贏チ獲タル唯一
ノ利権ナルガ去ル四十年漁業協約ノ締結ト共ニ本邦漁業者
ハ遥ニ絶海極北ノ地ヲ指シテ一千有余哩ノ波濤ヲ超エ氷雪
ヲ冒シ荊棘ヲ開キ爰ニ業務ヲ開始シテ以來既ニ九星霜其間
借区料ノ通増ヲ忍ビ其他諸種ノ困苦欠乏ニ堪ヘ奮勵努力ノ
結果累年多額ノ收穫ヲ上ゲ(一号表参照)其ノ価額約七、

八百万円ニ達スルノ状況ニシテ之ガ販路ニ就テハ夙ニ本会
議所モ力ヲ尽セル所ニシテ現今既ニ上海香港及南洋ノ方面
ニ亘リ殊ニ罐詰ノ如キハ遠ク欧米諸国ニ輸出セラルノ盛況
ヲ呈スルニ至リ独リ国家經濟上ノ大利益タルノミナラズ一
面ニ於テ營業者ハ能ク国家利権ノ擁護ニ尽瘁セルモノト謂
フベシ然ルニ一昨秋歐洲戦乱ノ勃発ト共ニ世界ノ海運界ハ
甚大ノ影響ヲ受ケ爾來運賃及ビ備船料ハ日ヲ逐ウテ昂騰シ
今日ニ於テ之ヲ戰前ニ比スレバ汽船ハ二倍強ニ帆船約五割
ノ騰貴ヲ來タシ尚ホ且ツ其止マル所ヲ知ラザル趨勢ニシテ
(二号表参照)之ガ為メニ昨年ハ相当ノ收穫ヲ觀タルニ拘
ハラズ一般ニ非常ナル損失ヲ被ルノ非境ニ陥リ本年度ニ於
テハ一層輸送費ノ膨大ヲ來タスヤ明カナルヲ以テ業務ノ繼
続ハ徒ラニ損失ヲ大ナラシムルニ止マルベク寧ロ借区料ヲ
納付シテ単ニ租借權ヲ留保シ一時休業ヲナスノ外途ナク其
ノ窮状実ニ名状スベカラザルモノアリ而シテ個人ノ資力ニ
ハ既ニ限定アリ歐洲戦乱ノ終局ハ今日到底之ヲ予期スル能
ハザルノミナラズ假令近キ將來ニ於テ平和克復ヲ見ル事ア
ルモ海運界ノ復旧ハ決シテ容易ノ業ニ有ラサルベキヲ以テ
其間當業者ハ拱手業務ヲ休止スルノ苦ニ堪ヘザルベシ若シ

夫レ此ノ如キノ結果ヲ招カンカ此ノ尊ベキ利権ハ當業者
ノ廢業ト同時ニ消滅セザル可カラザルノ悲運ニ遭遇スルヤ
必セリ国家威信ノ失墜豈之ニ超ユルモノアラシヤ、顧ミル
ニ貿易ノ助長ニ努メ或ハ莫大ノ費ヲ投ジテ特別ノ救済方法
ヲ講究実行セラレタルハ周知ノ事項ニシテ時局ニ對スル機
宜ノ処置ナリ幸ニシテ政府当局ハ該利権ヲ尊重シ露領ニ於
ケル多數邦人漁業者多年ノ奮闘努力ニ由ル功勞実績ヲ觀察
セラレ邦家ノ為メ名譽アル利権維持存続ノ策ヲ図ラレ速ニ

當業者現下ノ窮状ヲ救済セラレン事ヲ切望シテ止マザルナ
リ
右本所總會ノ決議ニ依リ建議候也
大正四年 月 日

函館商業會議所會頭名

關係大臣宛

註 右決議ハ一月十九日行ハレ即日會頭岡本忠藏ノ名義ヲ以テ
石井外務大臣宛送付セラレタリ

(第一号表)

沿海州及北部サガレン漁業成績

品 別	年 別				年 別			
	明治四十一年				四十二年			
紅	三〇、四四石	七、一五五石	三、五九九石	一、三六七石	一〇、八三三石	八、〇二二石	八、八四四石	七、七三三石
鮭	五、六四一	七、七四七	一、九六三	三、三〇七	四、四四六	一、六〇七	三、四七四	七、〇八五
鱒	四、七五〇	三、二七〇	三、二〇八	三、〇七九	一、六三四	三、一三四	二、〇三三	三、〇〇四
計	一〇、一四一	一、九七一	一、九四一	一、四四七	一、六〇三	一、四三三	二、六六三	三、六六四

備考 右表中ニハ雄鮭ヲ加算セズ且ツ大正四年度ハ未タ報告ニ接セザル漁場ニケ所アリ故ニ之ヲ加ヘサルモ其見積ハ約八千石内外ナリ
明治四十一年ヨリ四十四年迄ハ鮭六十尾鱒一万六千尾、鰊鮭四千貫ヲ百石トス
大正元年以降ハ鮭七千尾紅鮭八千尾、鰊鮭四千貫ヲ以テ百石トス

(第二号表)

備船料比較表

汽船(総噸數一千噸型ノモノヲ標準トス)

一日分 備船料	一航海所要日		送込備船料總額	引揚備船料總額
	平均	送込		
戰前	二八〇円	二二〇日	五、六〇〇円	七、〇〇〇円
現時	六〇〇	二二〇	一、〇〇〇	一五、〇〇〇
差額	二二〇	二二五	六、四〇〇	八、〇〇〇
老噸ニ対スル差額			六円四十錢	八円

帆船

戰前	老噸ニ対スル備船料	十一円
現時	同	上 十六円
差額		五円

附記帆船ハ一漁期ヲ通ジテ備入ルルモノナリ

二三四 一月十八日 神山露領水産組合組長ヨリ 石井外務大臣宛

露領漁場出漁船ニ対シ国库補助金交付方請願

ノ件

(一月二十日接受)

歐洲戰亂ノ海運界ニ及ボセル影響ハ著シク船舶ノ欠乏ヲ來

献スル所決シテ鮮少ナラザルナリ然ルニ今ヤ前述ノ苦境ニ
陥イレルハ是レ我当業者自己ノ失計ニ依リテ招致シタル所
ニアラズシテ時局ノ圧迫ニ余儀ナクセラレタルモノナレバ
正ニ我当路者ノ産業保護政策上ノ救済ニ値ヒスル者タル可
キヲ確信ス

客歲十二月二十四日ノ衆議院予算第二分科會議ニ於テ樺太
併合問題ニ関スル一議員ノ主張ニ対シ一木内務大臣ハ樺太
ガ日露戰爭ニ依リ多大ノ犠牲ヲ払ウテ獲得シタル者其利權
ヲ拡張シ其發達ヲ計ルハ最モ須要ニ属ストノ理由ヲ以テ極
力之ヲ反駁セラレタル实例ニ鑒ミレバ同一戰勝ノ結果トシ
テ數層貴重スベキ意義ヲ有スル露領漁業ノ保護奨励ニ対シ
テモ亦内閣諸公ノ同一意見ヲ有セラルルヲ信ズ
顧ミルニ政府ハ平時海運界ニ向ツテ周到ナル奨励ヲ加ヘ遠
洋近海及ビ内地沿岸航路ノ如キ国費若クハ地方費ノ補助ヲ
支給セラルルモノ極メテ多シ而シテ特ニ歐洲戰亂ノ勃發シ
テヨリ以來我國重要ノ産業乃至貿易品中最モ先ツ惡影響ヲ
被ムレル生糸ノ輸出劇減ニ対シテハ早く已ニ救済ノ殊恵ヲ
施コシ海上保險界ノ不安ニ対シテモ亦莫大ナル補償金交付
ノ特典ヲ設ケラレタルハ輒近周知ノ事實ニ属ス

タシ從ツテ備船料ノ昂騰トナリ我露領漁場經營者ノ被リタ
ル損失ハ業ニ既ニ意想外ノ多額ニ上リタルガ更ニ昨今ニ至
リ雇船料ノ昂騰ハ空前ノ盛況ヲ呈シ殆ント其ノ底止スル所
ヲ知ラズ我当業者ハ本年度ニ於ケル漁場往復輸送費ノ膨大
ヲ予算スルトキハ我当業者中有數ナル好漁区ヲ有スル者ト
雖モ猶ホ且ツ雇船料ノ高キガ為ニ寧ロ一時營業ヲ休止シテ
空シク高価ナル借区料ヲ露國政府ニ納入シ以テ単ニ租借權
ノミヲ維持スルヲ以テ得策ト為スト云フカ如キ苦境ニ沈淪
シツツアリ況ンヤ夫レ以下ナル漁区ヲ有スル者ニ至ツテハ
到底為ス所ヲ知ラザルヤ明ラカナリ

蓋シ露領漁業經營ノ事タル日露戰役ニ依リ幾万ノ生血ヲ注
キ巨億ノ国帑ヲ費シテ獲得シタル貴重ナル利權ノ一ニシテ
漁業協約實施以來既ニ八年其間我組合當業者ハ専ラ之レカ
經營実行ノ仕ニ當リ一千余哩ノ風濤ヲ凌キテ絶海荒漠ノ地
ニ航シ幾多ノ苦心ト損失トヲ重ネテ漸ク發展ノ実績ヲ顯現
スルニ至レル者ニシテ其漁獲製産物ノ上海香港及ビ南洋等
ノ海外市场ニ上ルモノ今ヤ殆ント二百万円ニ及ビ其消費率
累年倍加ス殊ニ罐詰ノ如キハ遠ク歐洲諸國ニ輸出セラルル
モノ百五十万円ニ達セルヲ以テ見ルモ我ガ国家經濟上ニ貢

我ガ組合員經營ノ業務ガ産業海運及ビ貿易上ノ各方面ニ於
テ何レモ相当ノ地歩ヲ占メ而モ多年外領孤立ノ間ニ於テ具
サニ独力奮闘ノ酸楚ヲ嘗メ以テ貴重ナル国家ノ利權ヲ擁護
シ來レルモノナルコト前ニ既ニ陳ベタル所ノ如クナルニ今
ヤ力尽キ策窮マリ殆ント其為ス所ヲ知ラザルノ悲境ニ立テ
リ此際我政府ハ我漁業者營業上ノ最要部タル出漁船舶ニ対
シ相当ノ補助金ヲ与ヘテ救済ノ法ヲ講シ以テ産業及貿易ノ
頽敗ヲ防遏セラレンコトヲ熱望シテ已マサルナリ

依テ別紙国库補助金要望覺書並ニ参考ノ資ニ供センガ為メ
日露漁業協約實施以來ノ關係諸統計表ヲ添附ノ上此段及請
願候也

大正五年一月十八日

露領水産組合

組長 神山 閏次 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

(別紙)

国库補助金要望覺書

一、露領沿岸漁区經營者ハ時局ノ影響ヲ緩和センカ為メ左
記平時並ニ戰時備船料比較差額表ノ指示スル所ニ依リ該

影響ノ存続中出漁汽船及ビ帆船ニ對シ総噸數各屯噸ニ付金五円宛ノ補助金ヲ国庫ヨリ支給セラレンコトヲ要望ス但右漁区中西南区ニ属スル分ハ東西堪察加及ヒ「オホツク」等ニ比シ航路比較的近距離且ツ平易ナルヲ以テ該補助率ヲ低下シ帆船汽船トモ各屯噸ニ付金式円宛備考一、別表漁獲物累年統計表ニ依リテ本年度漁獲高ヲ四十五万石此価額（鑛詰ヲ含ム）金七百万円ト推定スルトキハ積取船ノ積算噸數帆船四万八千噸）外ニ送込汽船五万噸（帆船ハ一漁期ヲ通シテ傭入ルルモノナルヲ以テ加算セズ）合計十五万噸ナルヲ以テ前記補助金屯々年分

總額金七十五万円内 西南区分帆船二千五百噸 汽船六千噸
合計八千五百噸ニ對スル補助金差額金二万五千五百円ヲ
減シ差引金七十二万四千五百円ヲ要ス

備考二 露国漁業者ハ平時ニ在リテモ無線電信其他諸船ノ
設備完足セル義勇艦隊所屬船舶ノ定期航海ニ依リテ多大
ノ保護ヲ受クルノミナラズ露国政府ハ戰時ニ入りテヨリ
モ依然トシテ從來ノ運賃定率ヲ持續シ且ツ濫リニ積取ニ
要スル滞船日數ヲ制限セザルヲ以テ其ノ便益ハ平時モ尚
ホ多額ノ儲船料ヲ負担スル月本漁業者ノ企及スル所ニア
ラス

參考書

種別	年別	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年	正元年	正二年	正三年	正四年
租借區漁區數	八七	一八三	一五七	三三	二三	二六	三六	三六	三三
借區料總計	一四、四三留	一七、五七留	一六、〇七留	二六、六三留	三七、八七留	四四、八五留	五八、四八留	七〇、二四留	七〇、二四留
一漁區平均	二、三五	九一	一、二三	一、二三	一、五八六	二、〇四五	二、五九九	三、〇五五	三、〇五五
船汽噸數	七	七、九四六	二、八七五	四、六三	五、四、三三	六、七、三三	六、五、三三	八、五、一三	一〇、三
帆船噸數	二	二、四、三三	三、〇、八七	二、八、五三	二、八、五三	三、五、八六	三、五、八六	三、五、八六	三、五、八六
帆船隻數	一九九	二、四、三三	二、四、三三	二、四、三三	二、四、三三	二、四、三三	二、四、三三	二、四、三三	二、四、三三
漁夫人數	三、七四	二、一〇〇	二、六六八	七、六六	九、七五一	二、六六七	二、六六七	二、六六七	二、六六七

現在組合員数 二〇二名

現在固定資産 八百万円

每年收獲高価格 七百万円乃至八百万円

每年補助經營費 六百万円乃至七百万円

大正五年一月調

露領水產組合

註 右ノ外傭船料比較表及漁獲高表添付セラレアルモ前掲二三

三文書第一号表及第二号表ト同一ナルニ付省略シタリ

二三五 二月十四日 神山露領水産組合長ヨリ
 玄田通商局第一果菱宛

廣田通商局第一課長宛

日露漁業協約會議録等供与方依頼ノ件

癸第一六六号

大正五年二月十四日

露領水産組合組長 神山 閏次（印）

外務省通商局第一課長 広田弘毅殿

謹啓陳者当組合事務处理上参考ニ供シ度候間左記印刷物各
 壱部宛御惠与方御高配相仰キ度若シ右余分無之候ハハ暫時
 御貸与被下度願上候 敬具

左記

七 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業ニ関スル件 二三五
二三六
二三七

外務省出版

一、日露漁業協約會議録

同

二、ポーツマス講和条約會議録

以上

二二六
二月十六日
広田通商局第一課長ヨリ
神山露頭水産組合組長宛

神山露領水産組合組長宛

日露漁業協約會議錄等供与方依頼二関シ回答

件

通送第一〇八号

本件ニ関シ本月十四日附發第一六六号ヲ以テ御申越ノ趣了
承日露協約會議録ハ明治四十年十一月廿九日官報号外ニ掲
載有之候条右ニテ御承知相成度尚又ボーツマス講和条約會
議録ハ機密ニ屬シ貴覽ニ供シ難ク候ニ付右様御承知相成度
此段申進候也

二三七 二月十七日
在ニエラエウスク山口事務代理ヨリ
石井外務大臣宛

石井外務大臣宛

沿海漁区ニ於ケル網袋使用ノ禁止ニ関スル新

聞記事訊報ノ件

公第九号

(三月六日接受)

大正五年二月十七日

在ニコラエウスク

領事館事務代理 山口 為太郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

露曆本年一月二十二日刊行「プリアムールスカヤ、ジーズニ」新聞ハ「日本漁業者ト網袋」ナル題ノ下ニ本年沿海漁区租借条件第二項ノ但書ヲ以テ紅魚類漁区ニ於ケル網袋使用ヲ禁止セラレタル理由ヲ詳説シタルトコロ右ハ国財庁ノ意ヲ承ケテ起草シタルモノノ如ク露国側ノ主張ノ点ヲ窺知スルニ足ルト思惟候ニ付時節柄御参考ノ為別紙ノ通り全文ヲ訳出シ茲ニ及報告候 敬具

(別紙)

日本漁業者ト網袋

項目「プリアムールスカヤ、ジーズニ」新聞ニ左ノ意味ノ電報通信社ノ東京電報掲載セラレタリ

「新聞紙ハ露国官憲力漁撈法制限ノ意味ニ於テナセル極東領水ニ於ケル漁撈規定ノ変更ニ関シ之ヲ日本漁業者ノ利益ヲ侵害スルノ措置ナリト称シ不満ヲ表シツツアリ」

極東領水ニ於ケル網袋使用ノ問題タル今ヤ世人ノ注意ヲ喚起シ險惡ノ状態ニアレハ吾人ハ実質上網袋ニ関シ一言スルノ興味ナキニアラサルヲ認ム

吾人ハ日本新聞記者及代議士カ本問題ノ技術の方面ヲ知ルコト不充分ニシテ網袋ノ使用ヲ特ニ有利トスル二三漁業者ノ為ニ全ク錯誤ニ陥レラレタルモノナリト信ス

若シ然ラサリシナランニハ彼等ハ魚類ヲ暴殄スルノ漁撈法ヲ弁護スルニ至ラサリシナラントハ吾人ノ敢テ考フルトコロナリ且ツ又吾人カ常ニ協約ノ条件ヲ嚴守シタルノミナラス兩國友交關係ノ鞏固ヲ加フルニ從ヒ日本漁業者ニ幾多ノ緊要ナル特典ヲ賦与シタルコトハ網袋弁護者ノ記憶ヲ要スルトコロナリ

我領水ニ於テ日本人ノ漁業勃興ノ当時ヨリ網袋ハ鯨漁区ニ於テ使用セラレタルモノニシテ漁撈ノ際ノ活洲トシテ、海中ニ於ケル鯨ノ一時的の保存ノ為メ、及岸上ヘノ之レカ運搬ノ為メ同時ニ其ノ用ヲナセリ

漁業者ハ鯨漁ノ際締粕製造ノ為メ常ニ成ルヘク多量ノ鯨ヲ有スルノ必要アル点ヨリ言フモ網袋ノ使用ヲ廃スルコト能ハス鯨ノ大群来ハ通常二、三日間ナルニ顧ミ漁業者カスル

其ノ後電報通信社ハ日本人ノ利益ヲ侵害スル漁撈法ノ變更ニ對シ政府ノ措置ニ関スル質問下院ニ提出セラレタル旨東京ヨリ報道セリ該質問者ハ問フテ曰ク政府ハ漁業協約改訂ノ際極東領水ニ於ケル日本漁業者ノ權利伸張ヲ主張スル考ナルヤト

之レト同時ニ日本外務省ハ在「ペトログラード」公使及在浦潮斯德領事野村氏ヲ經テ該問題解決ノ手段ヲ執レリ

吾人ハ亦第一九五六号紙上ニ二月二十三日浦潮斯德ニ於テ競売ニ附セラルヘキ沿海漁区租借条件第二項ノ變更ノ詳細ヲ載セタリ

該項ニハ建網ノ定義ノ外網袋ノ使用ハ鯨漁ニ限り差支ナキ旨ヲ言明シアリ紅魚類ノ漁撈ノ場合ニアリテハ漁撈用、魚類ノ海中保存用及製魚場ヘノ魚類運搬用トシテ網袋一切ノ使用ヲ禁シアリ

該網袋使用ノ禁止コソ「日本漁業社ノ利益ヲ侵害スル」措置ト称スル理由トハナリタレトモ吾人ハ斯ル見地ニ同意ヲ表スルコト能ハス調査ノ結果ニヨレハ網袋ヲ使用スル漁撈ハ数百万ノ魚類ヲ減尽スルモノニシテ水産の富源ノ合理的獲得ニハ絶対ニ許サルヘカラサルモノナリ

短時間ニ於テ自己ノ予算額ニ充分ナル数量ダケノ締粕製造用原料ヲ予備セサルヘカラサルヤ自然ノ理ナリ活洲ノ用タル鯨群来ノ二、三日間之カ漁撈ヲ間断ナカラシメンカ為メニシテ鯨ハ漁撈ノ際建網ヨリ活洲ヘ移サレ魚カ一ノ網袋ニ充滿セラルルヤ新ナル網袋ハ建網ニ近接セラレ充滿セル網袋ハ三羽船ノ底ニ之ヲ結ビ着ケ無難ノ場所ニ錨ヲ附シテ三羽船ト共ニ存置セラルスノ如クニシテ鯨群来ノ二、三日間間断ナク之レカ漁撈行ハレ若シ漁業者カ此期間ニ於テ充分鯨ヲ漁獲シ得タルトキハ該漁期ノ成効確保セラレタリト見做スヲ得ヘシ

鯨漁区ニ對スル網袋使用ノ意義斯克ノ如クナレハ未タ曾テ何人モ之レカ使用ヲ禁セサリシヤ勿論ナリ

紅魚類漁区即チ主トシテ紅魚類ノ漁撈セラルル漁区ニ於テ網袋ヲ使用スルニ至リタルハ最近年ノコトニ屬シ而カモ其使用ハ常ニ官憲ニ隱蔽シテ行ハレタルモノニシテ現今網袋ヲ使用シツツアルハ僅少ノ紅魚類漁区ニ止マリ其ノ数、十ヶ所ヲ超エス且ツ漁業者ハ漁業監督官吏ノ面前ニ於テハ言ヲ網袋使用ノ禁令ナキニ托シテ魚類ノ保存及製魚場ヘノ魚類ノ運搬ニ之ヲ使用シツツアルモ監督官吏ノ在ラサル場合

ニハ常ニ(之レ後節ニ説クトコロヨリ明カナリ)之ヲ漁撈ニ使用シツツアリ

網袋ノ使用其ノモノニ就キ三個ノ主要ナル時機ヲ區別スルヲ要ス(一)漁撈ノ際建網ノ一部分トシテノ網袋(二)海中ニ於テ漁獲魚ノ一時的保存ノ場所トシテノ網袋(三)製魚場ヘノ魚類運搬ノ際ニ於ケル網袋即チ之レナリ網袋ハ活洲即チ建網ノ一部分トシテ紅魚類漁区ニ於テ鮭又ハ鱒群来ノ場合ニ使用セラレ且ツ其ノ使用法ハ概シテ鯁漁ニ於ケル夫レト相同シ即チ丈夫ナル網ヨリナレル長形ノ袋ハ軀網ノ右側(入口ヨリ見テ)ニ碇泊セル三羽船ノ両舷ニ其両端ヲ結ビ着ケラル即チ網袋ハ三羽船ノ内部ニ両船ニ沿ヒテ渡シアル根太ニ結ビ着ケラレ殆ソト水中ニアリテ三羽船ノ底下ニアリ

建網ノ軀網ヲ起スニ当リ網袋ノ端ハ建網ノ端ニ縫ヒ着ケラレ捕獲セラレタル魚ハ網袋ヘ流シ込ムナリ網袋(一個又ハ數個)ハ建網ニ縫ヒ着ケラレタル瞬間ニ於テ建網ノ不可分の部分(活洲)トナル之レ即チ許可ナキ漁具ノ使用トナルナリ

漁業監督官吏ハ最初ヨリ紅魚類漁区ニ於テ活洲トシテノ網

網袋ノ使用禁止ノ必要ハ左ノ理由ニヨル

一、網袋ノ縫ヒ着ケアル建網ハ其作用ニ於テ改良網(訳者曰ク角網ノ誤カ)ヨリモ一層捕獲力ヲ増スモノナルカ協約ニハ「通常ノ建網ニ限り許サレアリ

實際建網カ活洲トシテ縫ヒ着ケタル網袋(一個又ハ數個)

ヲ有セサルトキハ捕獲魚ハ建網ヨリ鉤ニテ採リ三羽船ヘ投ケ入レラルルニヨリ之レカ為メニハ群来良好ニシテ建網カ魚ヲ以テ充滿セルトキハ長時間ヲ要ス然ルニ建網ニ縫ヒ着ケタル網袋アルトキハ網袋ノ縫ヒ着ケアル建網ノ上端ハ水中ニ沈メラレ魚ハ網袋ヘ追ヒ込マルルニヨリ該作業ノ為メニハ建網カ如何ニ魚ヲ以テ充滿ストモ五分乃至十分以上ヲ要セサルカ故ニ活洲トシテノ網袋ノ使用ハ建網ヨリ魚ヲ採ルニ要スル時間ヲ毎回著シク減縮シ魚ノ群来良好ナルトキ一日數回建網ヲ起スコトニ想到センカ活洲トシテノ網袋使用ノ利益ナル点ハ自ラ明カニシテ一方ニハ漁具トシテノ建網ノ捕獲力ヲ増大シ他方ニハ労働者ノ捕獲魚ノ採リ揚ケニ要スル時間ヲ省ク

二、紅魚類漁区ニ於ケル建網ヘハ現今漁業ノ目的物タル紅魚類ト共ニ未タ漁業ノ目的物タラサル他ノ魚類例之鱈、

袋ノ使用ハ仮シ網袋ヲ建網ニ縫ヒ着クルコトカ一時的ナリトハイヘ紅魚類漁区ノ建網ノ型其ノ物ヲ變更スルモノナリト見做シ其使用ヲ抑圧スルコトトセリ斯クテ漁業者ハ漁業監督官吏ノ要求ニ從ヒ該官吏ノ面前ニ於テハ網袋(一個若クハ數個)ヲ建網ニ縫ヒ着クルコトナク魚類ヲ建網ヨリ鉤ニテ採リ之ヲ網袋ヘ入ルルコトトセリ但シ漁業者ハ法律ト沿海漁区租借条件トヲ問ハス捕獲魚ヲ製魚場ヘ運搬スルノ目的ヲ以テスル網袋ノ使用ヲ禁セサルコトヲ指摘シ居レリ

魚ヲ以テ充滿セル網袋ハ三羽船ト共ニ陸岸ニ近ク運ハレ三羽船ハ投錨シテ製魚ノ為メ魚カ切開場ヘ運搬セラルルノ順番ノ来ルヲ待ツ

漁業者ハ三羽船ヨリ網袋ヲ解キ放シ之ヲ數条ノ繩ニテ緊ク巻キ三羽船ニ獨立シテ之ニ錨ヲ附スルコト極メテ屢々之レアリ該網袋ヲ引揚クルノ順番来ルトキハ蒸汽又ハ發動機絞盤ニ結ビ着ケアル太クシテ丈夫ナル繩ノ端ニテ數ヶ所網袋ヲ巻キ陸岸ニ接シテハ該網袋ノ下ヘ滑走器ヲ置キ網袋ハ滑走器ト絞盤ノ機械的力ノ作用トニヨリ陸上ニ引キ揚ケラルルナリ

鰈、「ナワীগ」、「コーリュシカ」、鯁、「ゴリツイ」

〔モルスカヤ、フオレリ〕等モ亦混入ス

網袋ナキ場合ニハ漁業ノ目的物タル紅魚類ハ建網ヨリ之ヲ採ルニ当リ一尾ツ、鉤ニテ三羽船ヘ採リ残りノ漁業ノ目的物タラサル前掲魚類ハ単ニ網ヲ振フノミニテ建網ヨリ取り去ラルルモ網袋使用ノ場合ニハ即チ然ラス漁獲魚ハ全部網袋ヘ移サレ魚ノ選択ハ網袋ヲ岸上ヘ運搬シタル後行ハレ岸上ニ於テハ漁業ノ目的物タル魚類ノミヲ採リ残余ノ魚類ハ或ハ製魚場ノ廃棄物ト共ニ穴ニ埋メ或ハ海上ヘ運ヒ放棄セラルルナリ

前者ノ場合即チ漁業ノ目的物タラサル魚類カ建網ヨリ直ニ水中ヘ取り出サルル場合ニ於テハ魚類ハ毫モ傷害ヲ被ラサルニヨリ生存スヘシト雖モ後者ノ場合即チ魚類ヲ岸上ニ運ヒタル後之ヲ選択スル場合ニハ比較的小形ニシテ漁業ノ目的物タラサル魚類ノミナラス漁業ノ目的物タル魚類モ亦殆ソト皆死シ居ルナリ斯クノ如ク網袋ヲ使用スル場合ニハ未タ漁業ノ目的物タラストハイエ多大ノ価値ヲ有スル魚類數百万尾ハ年々不生産的ニ死滅シツツアリ網袋ノ公然使用セラレタル短年月間ニ斯ル魚類ノ埋没セラレタルモノノ概算ニ

ダモ勝ヘサル巨額ニ達シ網袋使用ノ紅魚類漁区ニ於テハ幾多ノ魚類墓地ヲ形成セリト言フモ可ナリ

三、網袋ヲ使用セサル紅魚類漁区ニ於テハ一日間ニ整理シ得ラルル丈ノ数量ヲ漁獲スルニ止ムルニヨリ紅魚類ノ群來濃厚ナル場合ニハ漁撈スルコト三、四時間ニテ充分ナリ而シテ天候不良ノ場合ノ為メトシテ通常何等ノ貯蓄ヲナスコト普通ノ現象ナリ

通常暴風後多数ノ死魚ノ海岸ニ散乱スルヲ見ルハ実ニ毎年ノコトニシテ該魚ハ前日捕獲セラレ海中ニ於テ網袋ニ容レラレ岸ノ附近ニ錨ヲ附シ存置セラレタルモノニシテ夜間暴風起リテ網袋ハ破綻シ網袋内ニ充滿シテ長時間ノ保存ノ為メ死シタル魚ハ波浪ノ為メ岸上ニ打ち上ケラレタルモノナリト探究ノ結果分明スルヲ常トス

漁業者ハ翌日暴風來襲センコトヲ恐レ大群來ノ当日所有網袋ノ全部ヲ魚ヲ以テ充滿スヘキヲ労働者ニ命ジ網袋ハ之ヲ海中ニ錨ヲ附シテ存置シ建網ハ之ヲ撤去シ整魚ノ為メ順次ニ網袋ヲ岸上ニ運搬シ労働者ハ翌朝マテ労働ヲ継続スルモ尚ホ且全部ノ網袋ヨリ魚類ヲ採リ了ルコト能ハサル場合間々之レアリ然ルニ暴風遂ニ來ラス魚類ノ群來ハ依然トシテ

二乃至三「サージエニ」ナル中形ノ網袋ハ鮭二千乃至三千尾ヲ包容ス

紅魚類漁区ニ於ケル網袋使用ニハ鯨漁区ニ於ケル網袋使用ノ多年間ノ経験ニヨリテ案出セラレタル方法ヨリモ適ニ優越ナル方法今ヤ案出セラレ蒸汽絞盤、輾轆器、滑走器、各種索繩其ノ他ノ設備ニヨリ海中ヨリ揚クル魚類ハ全ク漁夫ノ手ヲ籍ラスシテ直接整魚者ノ手ニ移ルナリ

前述スルトコロニヨリ紅魚類漁撈ノ際ニ於ケル網袋使用ノ禁止ハ「日本漁業者ノ利益ノ侵害」ニアラスシテ地方經濟上斯ル主要ナル魚富ノ暴殄ヲ防護スルニアルヲ見ルヘシ吾人ハ該意見ヲ断乎トシテ声言シ且ツ主張スルノ必要ヲ認ムルモノナリ

二三八 五月九日 上山農商務次官ヨリ
幣原外務次官宛

日露漁業協約更新準備ノ為調査員派遣ニ関スル件

水第一三三二号

大正五年五月九日

農商務次官 上山 滿之進 (印)

七 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業ニ関スル件 二三八

良好ナリ而カモ漁業監督官吏ハ附近ニアラサルトキハ漁業者ハ勿論前日漁獲セル魚類ハ既ニ死シテ少シク酸敗セルモノトシテ之ヲ網袋ヨリ放棄スルノ措置ヲナシ新鮮ナル魚類ヲ漁獲スルコト常ニシテ同一ノ歴史ハ相續イテ繰リ返ヘサル

斯クノ如ク漁業者ハ我紅魚類ノ如キ斯ル高価ナル巨額ノ魚ヲ全ク不生産的ニ滅尽シツツアリテ若シ前ニ漁業ノ目的物ヲラサル魚類ノ墓地ノ存在ヲ指摘スルノ要アリシトセハ又陸上ニ於ケルヨリモ適ニ屢々之レアル水中ノ紅魚類ノ墓地ニ就キ同一ノ言ヲナササルヘカラス網袋ノ有害ノ作用ハ又左ニ記スルトコロニヨリ之ヲ見ルヘシ

網袋ヲ岸上ニ引キ揚クル際網袋ノ底ニ横ハレル魚ハ上層ノ魚ノ圧迫ノ為メ甚シキ傷害ヲ受ケ製魚ニ不適トナリ棄棄場ヘ運ビ去ラルルコト常ナリ各網袋内ニ斯ル魚類約百尾ヲ算スルニヨリ最モ控ヘ目ナル計算ニヨレハ一漁期間ニ於テ網袋ヲ使用スル紅魚類漁区ハ単ニ網袋ノ底ノ敷物トシテ紅魚類約三万尾ヲ要スルナリ

漁区ニ於ケル網袋ノ数量ハ其包容力ニヨリ各々異ナリ(八個一〇個二〇個四〇個)長サ四乃至五「サージエニ」周囲

外務次官 幣原 喜重郎殿

日露漁業協約更新期モ愈三年後ニ差迫リ候ニ付右更新ニ際シ必要ナル參考資料ヲ得ムカ為本年ヨリ之ヲ力調査ヲ為サシムルコトト相成先ツ本月上旬ヨリ別紙ノ通調査員ヲ派遣スル予定ニ有之候処実地調査ニ際シテハ自然露国官憲ノ便宜ノ供与ヲ必要トスル場合モ可有之又其ノ誤解ヲ招クカ如キコトアリテハ遺憾ノ次第ニモ有之候条露国政府ヨリ右關係ノ向ニ対シ可然訓令相成様至急露国政府ニ御交渉方煩度尤モ派遣ノ目的ヲ更新準備ノ為トスルハ国交上面白カラサル義ニ有之候ハハ從來ノ懸案ニ対スル本邦出漁者ノ要請カ果シテ至当ナリヤ否ヤ実地踏査スルタメ派遣スル位ノ意味ヲ以テ御交渉相成度尚本件ニ関スル貴省ノ御意見及出張員カ出發前及該地ニ於テ特ニ注意スヘキ事項等御心附ノ点御回示相成度此段及照会候也

追テ貴省ヨリモ同時ニ相当官吏ヲ派遣相成候様致度申添候

(別紙)

露国義勇艦隊航路汽船発着表(本邦曆)

オホトスク北半部、東堪察加北部、西堪察加南部方面

地名	着月	着日	発月	発日	日数	備考
函館	六一	六二	〇	〇	八〇	
オイヤルイ	六九	六九	一、四	五	〇	
シエルチング	六九	六九	四	三	〇	
モンテクレイ	六二	六二	一〇	五	二	
スキー湾	六二	六二	二	二	二	
タウイスク	六二	六二	二	二	二	
ヤーマン	六二	六二	二	二	二	
アルマン	六二	六二	二	二	二	
オーラ新河口	六二	六二	二	二	二	オホトスク北部調査
オーラ	六三	六三	六	六	二	
シ格蘭	六三	六三	六	六	二	
ヤムスク	六三	六三	六	六	二	
イレチ	六三	六三	六	六	二	
ウイリガ	六三	六三	六	六	二	
ナヤホン	六三	六三	六	六	二	
ギジガ	六三	六三	六	六	二	
ベトロボウロ	六三	六三	六	六	二	
フスク	六三	六三	六	六	二	
ウスチ、カム	六三	六三	六	六	二	
チャトスク	六三	六三	六	六	二	

東堪察加北部調査

パロン、コル	八二四	八二五	三八	二
フ湾	八二六	八三〇	三三	二
ウイウインス	八三二	八三六	三三	二
キチガ	八三三	八三六	三三	二
キチガ河川漁	八三三	八三六	三三	二
区	八三三	八三六	三三	二
ツイムラト	八三七	八三六	三三	二
ウスチ、カム	八四一	八四一	二六	四
チャトスク	八四一	八四一	二六	四
ベトロボウロ	八四一	八四一	二六	四
フスク	八四一	八四一	二六	四
函館	八四一	八四一	二六	四
計	八四一	八四一	二六	四

二二九 五月十一日

松崎水産局長ヨリ
坂田通商局長宛

露領沿岸漁業調査ノ派遣員ニ関スル件

水第一三三二号ノ内

大正五年五月十一日

農商務省水産局長 松崎 寿三(印)

外務省通商局長 坂田重次郎殿

露領漁業調査ノ為官吏派遣ニ関シ露国政府ニ交渉方ニ付本月九日附水第一三三二号ヲ以テ照会置候処右調査ニハ左記ノモノヲ派遣ノ予定ニ有之候条可然御取計相成度此段申進

候也

記

農商務技師

越田徳次郎

農商務技師

加隈良介

以上

二四〇 五月十三日

石井外務大臣ヨリ
在本邦露国臨時代理大使宛

農商務省技師及技手露領沿岸ノ漁場視察ニ付

便宜供与方依頼ノ件

通送第四九号

以書翰致啓上候陳者農商務省ニ於テハ令般「オホツク」方面及堪察加半島東西海岸ニ於ケル本邦人ノ漁業状態視察ノ為メ農商務省技師越田徳次郎技手加隈良介ニ出張ヲ命シ同官等ハ六月一日函館ヨリ露国汽船ニ搭乗出発ノ筈ニ付到着ノ上ハ露国当該官憲ニ於テ相当便宜供与相成候様貴下ニ御依頼方同省ヨリ依頼ノ次第有之候ニ就テハ右ノ趣至急沿黒竜江總督ニ御照会相成度尚ホ時機切迫致居候ニ付可相成ハ同總督ヨリ電信ヲ以テ当該官憲ニ訓令有之候様御申添方希望致候右御依頼旁本大臣ハ茲ニ貴下ニ向テ重テ敬意ヲ表候

七 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業ニ関スル件 二四〇 二四一 二四二

敬具

二四一 五月十七日

在本邦露国臨時代理大使ヨリ
石井外務大臣宛

露領沿岸漁業調査ニ便宜供与方依頼ニ対シ回

答ノ件

第四一一号

以書翰致啓上候陳者本月十三日附第四九号並ニ第五〇号ヲ以テ御申越ノ趣了承致候右沿黒竜江總督府へ通牒ニ及候処領事館書記生緒方静肅並ニ技師越田徳次郎及技手加隈良介ノ諸氏ニ対シ堪察加視察中出来得ル限りノ便宜援助供与方地方官憲へ電訓相成候趣ニ候条此段御通知旁々本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

東京、千九百十六年五月十七日/四日

シエキース

註 右ハ仮訳ナリ

二四二 五月三十日

在ニコラエウスク山口事務代理ヨリ
石井外務大臣宛

漁業権用箱鉄ノ徴発ニ関スル件

公第四三三号

(六月十九日接受)

二五五

大正五年五月三十日

在ニコラエウスク

領事館事務代理 山口 為太郎(印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

露国式塩魚ノ容器ナル樽ニ使用スル鐵鉢ハ製魚及魚類運搬上重要ナル意義ヲ有スルモノナルガ戦乱發生後極東ニ於ケル鉄類ハ供給国タリシ独逸ヨリノ輸入全ク杜絶シ各地ニ於テ漸ク之レガ不足ヲ感スルニ至リタレバ比較的需要ノ少ナキ地ヨリ多キ地ヘ移動スルノ微現ハレタルニヨリ沿黒竜江總督ハ各地ニ於ケル鉄類保存ノ措置ヲ執ルノ必要ヲ中央政府ニ提議シタル趣ノトコロ今回当地ノ商店及銀行ノ倉庫ニ現在セル鐵鉢ハ陸軍ヘノ魚類供給ヲ引受ケタル漁業者間ニ同總督ノ命令ニヨリ之ヲ配分スベキモノトシテ微発セラレタル由ナリ 右及報告候 敬具

二四三 六月二日 松崎水産局長ヨリ
坂田通商局長宛

露領沿岸漁業調査ノ調査事項ニ関スル件

局第七六二号

大正五年六月二日

農商務省水産局長 松崎 寿三(印)

外務省通商局長 坂田重次郎殿

露領沿岸漁業調査ノ為同方面ニ出張ヲ命セラレタル越田技師及加隈技手ニ対シ別紙事項ニ付調査スヘキ旨本月二十三日附下命相成候ニ付御参考迄此段及通知候也

(別紙)

調査事項

第一 重要魚族蕃殖保護ニ関スル件

一、重要魚族蕃殖ノ現状

- (イ) 親魚ノ種類、体長、体量、雌雄ノ別
- (ロ) 親魚ノ浜上、産卵状況、産卵後ニ於ケル親魚ノ生活状態

(ハ) 産卵期(初期、盛期、終期)

(ニ) 産卵場(位置、地勢、底質、水深、水勢、水質等)

(ホ) 孕卵数、孵化率、孵化期

(ヘ) 稚魚ノ発生及成育状態

(ト) 成長度

(チ) 害敵其他蕃殖上ノ障害

二、蕃殖保護上必要ナル主要河川

(ロ) 孵化場設置適地ノ有無

(採卵場、孵化場、親魚捕獲設備、孵化用水、放流

地点交通ノ便否等)

第二 漁区及漁場ニ関スル件

一、露国カ漁区閉鎖ノ理由トスル河口ノ出現及其位置ノ

變動カ魚族ノ蕃殖上ニ及ボス影響

(イ) 河口ノ位置、方位

(ロ) 河口ヲ構成スル地質及地形

(ハ) 河口ノ流幅、水深及水勢

(ニ) 底質及水質

(ホ) 兩岸ノ状況

(ヘ) 河口ト幹川トノ関係

(ト) 魚族浜上ニ対スル関係

二、露国出漁者及移住民ノ経営スル漁業ノ状態

(イ) 漁場(位置、地勢、地質、水深、水勢、水質)

(ロ) 漁具及漁船(種類、構造、装置、用途、価額、耐久力)

(ハ) 漁法

(ニ) 漁獲物(種類、数量、品質)

(ホ) 漁期

五、人工孵化事業施設ノ要否

(イ) 天然蕃殖ト人工養殖トノ比較

七 極東ノ露領沿海ニ於ケル漁業ニ関スル件 二四三

(イ) 従業者 (種類、員数)

(ロ) 漁獲物処理方法、販路及価額

(ハ) 漁業経済関係

(ニ) 生活状態

三、土民ノ経営スル漁業ノ状態

前項ト同シ

四、日露両国人共同経営ノ可否、若シ共同シ得ルモノトセハ其方法

五、露領水産組合ト露国漁業者団体及其関係

第三 漁具、漁法及製造方法ノ改良ニ関スル件

一、本邦出漁者ノ経営スル漁撈及製造状態

(イ) 漁区又ハ製魚区 (位置、地勢、地質、沿岸ノ状況、

最寄河川トノ関係、水深、水質、干満ノ差、海水ノ

移動、淡水供給ノ関係、交通、氣候等)

(ロ) 漁具 (種類、構造、装置、用途、価額、耐久力等)

(ハ) 漁撈方法

(ニ) 漁期 (初期、盛期、終期)

(イ) 漁獲物 (種類、数量、品質)

(ロ) 製造方法 (製品ノ種類、製法、数量、品質、漁業用

上ノ価額

A 沿岸漁業

(イ) 漁区及製魚区 (位置、地勢、地質、水深、水質、交通、氣候等)

(ロ) 漁獲物 (種類、数量、(見込) 品質)

(ハ) 漁撈法及製造方法

(ニ) 設備

(イ) 漁期 (初期、盛期、終期)

B 沖取漁業

(イ) 鮭鱒鯨沖取漁業 (流網、延縄、トロール)

(ロ) 鱒大鯿ノ釣漁業

C 新規漁業ト従来漁業トノ関係

二、新ニ利用シ得ヘキ水産動植物ノ種類、分布及経済上ノ価額

三、「インレット」ニ於ケル邦人漁業禁止ノ撤廃ニ対スル得失

(イ) 従来行ハレタル漁業状態

(ロ) 漁区及製魚区適地ノ広狭

(ハ) 漁獲物ノ種類及漁獲見込高

塩ノ種類及数量)

(ロ) 運搬方法、運搬ヲ必要トスル区域並共同廻航ヲ必要トスル程度

(イ) 漁区ノ設備

(ロ) 漁夫並ニ傭人 (員数、用途、雇傭ノ方法、賃銀、生活及衛生状態、衛生設備ノ必要程度)

(ハ) 漁業又ハ製魚経営方法及経済関係

(イ) 従来行ハレタル漁具魚法及製造方法ニ改良ヲ要スル点

(ロ) 混入魚族ノ種類、数量及其利用方法

(ハ) 漁具漁法ノ変遷

(イ) 薪材ノ種類、数量、供給方法並ニ植栽方法

(ロ) 残留ヲ要スル物品ノ種類並ニ其数量

(ハ) 船舶ノ河川碇泊ヲ要スル程度及各種船舶ノ碇泊シ得ル河川名

(イ) 漁業上必要ナル物品ノ種類、数量並ニ露国出漁者ノ必要トスル物品トノ比較

第四 漁業開発ニ関スル件

一、新規ニ起シ得ル漁場ノ位置及製造ノ種類並ニ其経済

(ニ) 交通ノ便否

第五 其他

一、勘察加州、沿海州及薩哈連州ニ関スル一般状態

二、露国ノ漁業監督及取締方法ニ関スルコト

(イ) 監督方法

(ロ) 漁業監督ト本邦出漁者トノ関係

二四四 六月二日

在ニコラエウスク山口事務代理ヨリ

石井外務大臣宛

ニコラエウスク地方漁業用塩ニ関スル件

公第五〇号

(六月二十日接受)

大正五年六月二日

在ニコラエウスク

領事館事務代理 山口 為太郎 (印)

外務大臣男爵 石井菊次郎殿

従来当地方ノ露国式製魚ニ使用セル食塩ハ主トシテ独逸ヨリノ輸入ニ係リシガ歐洲戦乱発生後同国ヨリノ輸入全ク杜絶シ昨年ハ其ノ代用トシテ台湾塩約二十万布度ノ輸入ヲ見タリシガ露国式製魚ニハ同塩使用ノ成績頗ル不良ナリシガ、本年ハ同塩ニ一顧ヲ与フルモノナキ有様ニテ当地漁業

者間ニハ「ボルサイド」又米国ヨリ食塩輸入ノ議アリシモ船便ノ都合悪キ等ヨリ其儘トナリ先般来当地漁業者ハ当地軍事工業委員会ノ名ヲ以テ「イルクーツスク」附近ノ官有製塩場ノ製塩購買方ニ付同製塩場ト交渉ナリシガ同製塩場ハ同場現在食塩二十万布度ヲ当地渡シ一布度ニ付約一留ノ値段ニテ売却セリ尚ホ同製塩場ハ更ニ二十万布度ヲモ必要ニ応ジ当地軍事工業委員会ニ売却スルノ契約ナル趣ナリ因ニ当地ニハ昨年ヨリノ残塩各種取交セ約二十五万布度アリ

二四五 九月十三日 松崎水産局長ヨリ
坂田通商局長宛

日露漁業協約ノ疑義ニ関シ照会ノ件

局第一二三三号

大正五年九月十三日

農商務省水産局長 松崎 寿三(印)
外務省通商局長 坂田重次郎殿

差迫リ必要之有候ニ付左ノ疑義ニ関シ至急貴省ノ御意見承知致度此段及照会候也

記

一、日露漁業協約第五条及同協約宣言第七ニ依リ露国政府

二、同協約第十二条及同協約宣言第七ノ規定スル課税ノ免除モ前項ト同様輸入者ノ何人タルヲ問ハス適用セラルルモノナリ

二四七 十一月十一日 松崎水産局長ヨリ
中村通商局長宛

極東ニ於ケル露領沿岸漁業ニ関シ当業者ノ意

見ヲ徴スル件

水第一〇五号ノ内

カ輸出税又ハ其他ノ公課ヲ課セサルハ日露両國人ニ必ス適用セラルヘキ義ナリヤ又ハ日本人ニノミ適用セラルルモノナリヤ

二、同協約第十二条及同協約宣言第七ニ依リ日本国政府カ輸入税又ハ其他ノ公課ヲ課セサルハ第一項同様必ス両國人ニ適用セラルヘキヤ又ハ露國人ニノミ適用セラルル義ナリヤ

尚両國人ヲ區別シ得ルモノトセハ其理由及根拠ヲモ承知致度

二四六 九月二十九日 坂田通商局長ヨリ
松崎水産局長宛

日露漁業協約ノ解釈ニ関シ回答ノ件

通送第八一四号

本件ニ関シ本月十三日附局第一二三三号ヲ以テ御照会ノ趣了承当省ノ解釈ハ左記ノ通候条此段御回答ニ及候也

記

一、日露漁業協約第五条及同協約宣言第七ノ規定スル課税ノ免除ハ輸出セラルヘキ水産物ニ附随スルモノニシテ輸出者ノ何人タルヲ問ハス適用セラルルモノナリ

大正五年十一月十一日

農商務省水産局長 松崎 寿三(印)
外務省通商局長 中村 巍殿

本年一月十五日附水第一〇五号ヲ以テ申進置候日露漁業協約更新準備ノ為当業者ヲ本省ニ招致スル日時ハ来ル十三日(月曜日)午後一時ニ決定候条貴省ヨリモ御臨席相成候様致度此段申進候也